

知っておきたい 人參養榮湯の基本と臨床のポイント

加島 雅之 先生 熊本赤十字病院 総合内科 部長

出典 三因極一病証方論

人參養榮湯の出典は『三因極一病証方論』（陳言 1174年）であり、「養榮湯」の名前で収載されている。一般的には『和剤局方』巻之五 治痼冷 淳祐新添方（淳祐年間（1241～1252年）の増補改訂版）とされているが、同じ組成、同じ効能の記載が三因極一病証方論にあるため、これが人參養榮湯の出典と考えられる。

効能・効果

病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、寝汗、手足の冷え、貧血

古典に見る人參養榮湯

気血双補剤の代表的方剤（図1）

人參養榮湯は「気血双補剤」の代表的な方剤の一つである。気血双補剤は、補気薬（人參、黄耆など）・益気薬（白朮、大棗など）と補血薬（地黄、当歸、芍薬など）の組み合わせがその基本組成である。

十全大補湯も気血双補剤の代表的な方剤だが、人參養榮湯は十全大補湯から川芎を除き、五味子・遠志・陳皮の3つの生薬を加えた処方である。これにより、「心」と「肺」への効果が增強されている。さらに陳皮が加わることで消化器症状の抑制効果も期待できることから、慢性的な呼吸器症状や意欲の低下、不安感などの症状や、食欲不振などの消化器症状の改善を目標に用いる。

人參養榮湯の来歴

『和剤局方』の条文と意識を図2に示す。

全く同じ条文が「三因極一病証方論」に掲載されている。さらに、極めて近似した条文が『肘後備急方』（葛洪 310年頃）に小建中湯、八味丸の適応条文として書かれている。三因極一病証方論の著者である陳言は『肘後備急方』に書かれている小建中湯、八味丸を越える補腎の方剤として、

「肺」や「大腸」にも効果を有する「養榮湯（人參養榮湯）」を作ったことが窺える。

八味丸は補腎の代表的な方剤だが、小建中湯も補腎の方剤の一つである。腎虚のある局面に「虚勞」という概念があ

図1 人參養榮湯の方剤解説

【組成】 人參3 黄耆1.5 白朮4 茯苓4 陳皮2 地黄4 当歸4 芍薬2 遠志2 五味子1 桂皮2.5 甘草1
 【効能】 気血双補・安神・止咳
 【病態】 気血両虚・心神不寧・肺虚咳嗽
 【症状】 息切れ、倦怠感、羸瘦、肌につやがない、不安、咳嗽、冷え、脈細無力

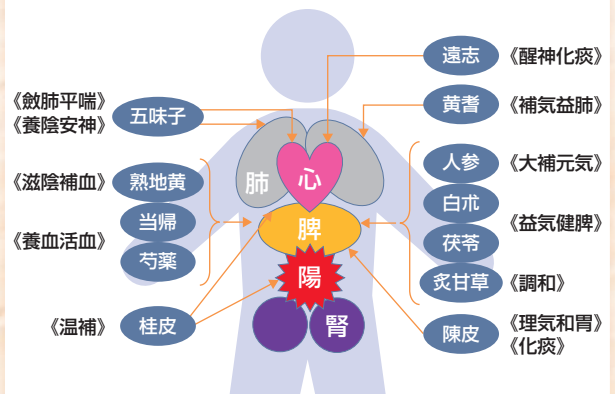


図2 人參養榮湯の条文 和剤局方 巻之五 治痼冷 淳祐新添方

積勞虚損 四肢沈滞 骨肉酸疼 吸吸少氣 行動喘吸 小腹拘急 腰背強痛 心虚驚悸 咽乾唇燥 飲食無味 陰陽衰弱 悲憂慘戚 多臥少起 久者積年 急者百日 漸至瘦削 五臟氣竭 難可振復 又治肺與大腸俱虚 咳嗽下痢 喘乏少氣 嘔吐痰涎



意識：「過勞の蓄積、消耗、四肢が重く、骨や肉がだるく痛み、息を吸おうとして吸いきれず、動けばずり泣くように喘ぎ、下腹部が引きつり、腰や背がこわばり痛み、心が虚して驚きやすく動悸して、咽や唇が乾燥し、飲食物の味がせず、陰陽ともに衰弱し、悲しみや憂い、恐れが生じ、寝ていることが多く、起きていることが少ない、慢性的な者は数年、急性の者は百日で、体が痩せほそり、五臓の気が枯渇して、もとに戻る事が難しい。また、肺と大腸の虚、咳嗽・下痢、あえぎと息切れ、痰や涎を吐くものを治療する。」

る。これは、進行性消耗性病態を指す概念であり、気血が消耗することで「精」が過剰に消耗されてしまい、それによって腎が虚損すると考えられている。したがって、気血を補うことによって腎の消耗を防ぐことが、腎虚の側面としての虚勞に対する気血を補う方剤の働きといえる。

『千金方』(孫思邈、唐初 650年頃)の、「五勞六極七傷」(虚勞の別名)を治療する方剤を特集した部分(卷十九腎臟方 補腎第八)に59方剤が収載されている。第1～第6方剤が建中湯類で第2方剤が小建中湯、第36方剤が八味丸である。このことから唐代以前において小建中湯は補腎の代表方剤であったことがわかる。したがって、「養榮湯」も補腎の方剤として作られた気血双補の方剤と認識できる。

人參養榮湯の効能

『保嬰撮要』(薛鏗 1566年)に盗汗(寢汗)に関して、「自汗属陽虚(自然発汗は陽虚に属する)、盗汗属陰虚(寢汗は陰虚に属する)であり、多くは「心腎不交」により生じる、特に「血氣ともに虚しているものは人參養榮湯(で治療する)」と書かれている。

心は陽気を腎に供給し、腎は陰液を心に供給するというようにお互いの精気を融通しあう関係があるが、この関係が何らかの理由で破綻する状態が「心腎不交」であり、その治療法が「心腎交通」である。そして心腎交通の方剤が人參養榮湯と理解されていた。さらに、心腎交通のためには脾胃が重要と考えられており、脾胃の不和に対しては人參養榮湯でより改善すると考えられる。

また、心腎不交が生じるとせん妄が生じやすくなる。低活動性せん妄は特に脾胃が障害されるタイプの心腎不交で現れやすいことから、人參養榮湯が効果を発揮することも期待される。

古典に見る人參養榮湯の臨床応用

医学入門(李梴 1575年)

『医学入門』では人參養榮湯を用いる局面として、気が散逸して消化機能が停滞し、それによって倦怠感、息切れなどが起こっているとき、気血がともに虚したことによって起こる熱(消耗することで熱を生じ、熱によって消耗する)のとき、血虚がひどくなることによる潮熱(夕方など決まった時間帯に悪寒せず発熱するような病態)、慢性の消耗性疾患で自汗し、それによって五臓の全てが消耗しきったときや様々な傷による出血過多のとき、過度な思い悩みすぎ

や心労が加わったときに心が虚してしまうが、これによって過度な精神的な動揺があるとき、などが示されている。

内科摘要(薛己 16世紀)

『内科摘要』では、消化吸收機能、呼吸機能がともに虚弱し、発熱しているときや、手足が疲れ果て、痩せ衰えて顔色が黄色く(おそらくは貧血)、息切れして食も摂れないもの、もしくは気血が虚していることによって現れる様々な症状に、“迷うことなく”使用することが強く推奨されている。

医方考(呉崑 1584年)

『医方考』では、血虚を呈したために顔色が悪くなる、物忘れをする、脱毛をするようなときに人參養榮湯を用いることができると書かれている。

医方口訣集(長沢道寿、1630年頃原著)(図3)

「人參養榮湯は気血が虚して心が衰えるものを治療する」、さらに「この方剤は十全大補湯に五味子・遠志を加えたもので、大病の後で精気が疲労し枯れ、心神が恍惚として顔色が萎縮したように白くなり、動かず寝ていることを喜ぶような状況に使う」と書かれている。つまり、大きな病気や怪我の後に生じる低活動性せん妄や体力の消耗を目標に使うことが示されている。

図3 人參養榮湯の臨床応用 -医方口訣集-

「氣血虚而心室衰者主之。～愚按此方者、十全大補加五味子遠志也。大病之後正氣勞枯、心神恍惚面色痿白、而喜怠喜臥者宜用之。」

卷上 人參養榮湯



意訳:「気血が虚して心が衰える者を治療する。～私が考えるに、この方剤は十全大補湯に五味子、遠志を加えたものである。大病の後で正気が疲労しかれ、心神が恍惚として顔色が萎縮した白となり、動かず寝ているのを喜ぶものにこの方剤を使用するのがよい。」

医療衆方規矩(図4: 次頁参照)

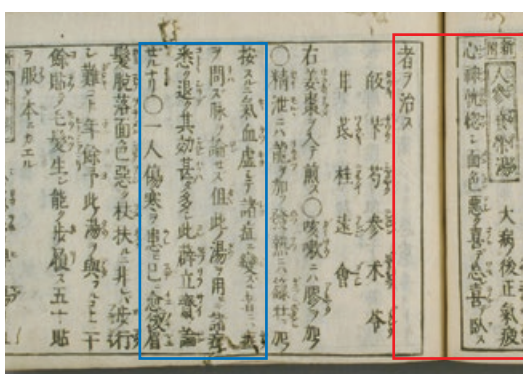
人參養榮湯「附新」(新しく収載した処方)において、「重篤な疾病の後で、精気が消耗し意識がはっきりせず、顔色が悪く忘れっぽくなり、臥床傾向にあるものを治療する」という一文が書かれている。これは、疾病後のフレイルの増悪、もしくは低活動性せん妄を思わせるような病態に有

知っておきたい人參養榮湯の基本と臨床のポイント

効であることを示唆している。さらに、「気血が消耗してしまったような状況で起こってくる様々な症状に対して、症状の種類や脈の性質など考えなくてもこの薬を使ってよい」と書かれている。

これらの記載から、人參養榮湯に対する強い信頼がおかれていたことが窺える。

図4 人參養榮湯の臨床応用 -医療衆方規矩-



重篤な疾病の後で、精気が消耗し、意識がはっきりせず、顔色が悪く、忘れっぽくなり、臥床傾向にあるものを治療する。

療治経験筆記

『療治経験筆記』（津田玄仙）では人參養榮湯の目標として、①毛髮墮落（抜け毛）、②顔色無沢（顔色に光沢がない）、③忽忽健忘（うつろで物忘れする）、④只淡不食（薄味でも食べられない）、⑤心悸不眠（動悸がして不眠）、⑥周身枯涸（体がかれたように痩せる）、⑦爪枯筋涸（爪の光沢がなく脆くなり筋の潤いがなくなる）を示している。

さらに、浅田宗伯は十全大補湯との比較において、「十全大補湯より消化機能や呼吸機能に対する効果が優れている」と述べている。

現代医療における人參養榮湯の臨床応用

-フレイル-

腎虚を背景に気血が消耗した病態にフレイルがある。さらにフレイルは社会的要素（孤独、閉じこもり）、精神的要素（うつ、認知症）が同時に絡み合う病態であり、人參養榮湯のスペクトラムと合致している。

症例提示

● 症例1 79歳 男性(図5)

主訴は倦怠感、息切れ、手足の冷え。数ヵ月で進行する貧血で紹介された骨髓異形成症候群（IPSS low risk）の症例である。十全大補湯で治療を開始したが無効であった。本症例は肺の基礎疾患があり、肺症状を有することから人參養榮湯に変更したところ、短期間の投与で血中ヘモグロビン値は改善した。

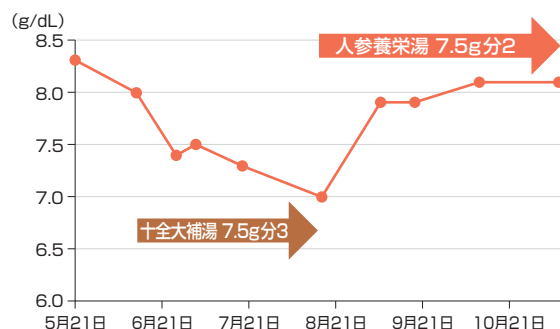
図5 症例1 79歳 男性

【主訴】倦怠感、息切れ、手足の冷え

【現病歴】数ヵ月で進行する貧血で紹介。2型糖尿病、高血圧症、IgG4関連脾臓性疾患の患者。骨髓異形成症候群（IPSS low risk）と診断。5q-変異はなく、漢方治療を行うこととなった。

【経過】十全大補湯から人參養榮湯に変更したところ、短期間で血中ヘモグロビン値は改善した。

● 血中ヘモグロビン値の推移



● 症例2 73歳 男性(図6)

主訴は倦怠感、抑うつ気分、体重減少。耳管開放症と診断され、加味帰脾湯の服用で耳鳴りなどの症状は改善したが、倦怠感、意欲の低下、体重減少の改善はみられなかった。人參養榮湯に変更したところ、1ヵ月後には意欲の改善、体重増加がみられ、倦怠感も改善した。

● 症例3 92歳 女性(図7)

主訴は倦怠感、意欲の減退。腎盂腎炎で入院したが退院後も倦怠感、意欲の減退、食欲不振、短期記憶の低下、入眠障害および中途覚醒が出現するようになった。気血兩虚、心腎不交と考へて人參養榮湯を処方したところ、4週間後には倦怠感の改善、短期記憶障害、入眠・中途覚醒は改善した。退院後8週間後頃には、自宅の近所を散歩できるまでに元気になった。

図6 症例2 73歳 男性

【主 訴】倦怠感、抑うつ気分、体重減少
【現病歴】耳管開放症の診断を受け、体重減少(4kg/3ヵ月)もあり加味帰脾湯の処方を受けた。倦怠感、意欲の低下、体重の改善は認められなかった。

- 既往歴: COPD、耳管開放症、閉塞性動脈硬化症
- 身長: 173cm、体重: 52.6kg、BMI: 17.57
- 1秒率: 64%
- 簡易抑うつ症状尺度(QIDS-J): 13(中等度)



【経 過】人參養栄湯服用1ヵ月後に倦怠感、意欲(QIDS-J: 1)は改善し、体重は増加した(1.5kg/月)。

図7 症例3 92歳 女性

【主 訴】倦怠感、意欲の減退
【現病歴】腎盂腎炎で入院。退院後も倦怠感、意欲の減退、食欲不振、短期記憶の記憶力低下と、入眠障害・中途覚醒を自覚した。

身長: 152cm、体重: 43kg、BMI: 19.6

【経 過(投与開始時⇒4週間後)】

- 倦怠感(VAS): 85/100⇒30/100
- (Vitality Index): 3/10⇒9/10
- 3事記憶: 1問正答⇒2問正答

臨床試験成績

●フレイルに対する人參養栄湯の臨床検討¹⁾

フレイル患者を対象に人參養栄湯の効果を非投与群と比較検討した報告で、24週後に人參養栄湯投与群で握力の有意な改善が認められた。

●COPDのフレイルに対する人參養栄湯の効果²⁾

フレイル状態のCOPD患者を対象に人參養栄湯の効果を非投与群と比較検討した報告で、24週後に人參養栄湯投与群で基本チェックリストの改善傾向がみられ、SNAQ(食欲)、HADS-D(抑うつ)、HADS-A(不安)の各スコアの有意な改善が認められた。

●急性期疾患の回復期のフレイルに対する人參養栄湯の効果³⁾

急性期疾患で入院した患者を対象に退院後から人參養栄湯を投与した症例の集積研究の結果、4週間後に健康関連QOLを測定するSF-36、大腿部周囲径や握力、栄養状態の改善が認められた。

人參養栄湯の類縁処方

●六君子湯

六君子湯は脾気虚を背景に、痰湿や胃気滞に用いる処方であり、消耗に伴う食欲不振、消化吸収機能の低下、上腹部不快感が生じる場合など、消化器症状に有効な方剤である。

●補中益気湯

補中益気湯は肺と脾の気虚、気の上昇低下(立ちくらみ、内臓下垂など)、さらに呼吸器症状の改善に重きが置かれた方剤である。このため、息切れ・倦怠感、立ちくらみ、食欲不振・軟便などが主な治療対象となる。

●加味帰脾湯

帰脾湯は心血虚、脾気虚に用いる方剤である。加味帰脾湯はさらに柴胡、山梔子、牡丹皮を加えることで肝の気滞や気の熱化の合併した病態に用いる方剤である。このため、病的不安感・熟眠障害、食欲不振、軟便に加えてイライラ、顔の熱感などの症状に対応する。

●十全大補湯

十全大補湯は気・血の不足を補う、創傷治癒機転の遅延を改善するなど臓器の特異性なく症状を改善させたいときに用いる方剤である。「肺」「心」の症状も改善するには人參養栄湯を選択する。

人參養栄湯の位置づけ

人參養栄湯の位置づけは以下のとおりである。

- ①気血両虚、虚勞(腎虚)への方剤
- ②消耗した精気を収斂・補充する
- ③養血・補陰を重点として、補気する
- ④他の気血双補剤と比較して心・肺に効果を持つ

参考文献

- 1) Sakisaka N, et al.: A Clinical Study of Ninjin'yoeito With Regard to Frailty. Front Nutr. 2018 Sep 24; 5: 73. doi: 10.3389/fnut.2018.00073. eCollection 2018
- 2) Hirai K, et al.: Usefulness of Ninjin'yoeito for Chronic Obstructive Pulmonary Disease Patients with Frailty. J Altern Complement Med 26: 750-757, 2020
- 3) Kashima M.: Case Report: Ninjin'yoeito May Improve Quality of Life After Hospitalization for Acute Illness in Patients With Frailty. Front Nutr. 2021 Apr 14;8:547512. doi: 10.3389/fnut.2021.547512. eCollection 2021.